

2016（平成28）年度 手書き実技試験問題（あらすじ）

テーマ「労働（非正規雇用・ブラックバイト）」

／本日の青年講座のテーマは労働。非正規雇用やブラックバイトでどのような問題が起きているか、10分くらい話す。その上で、正社員として安定して雇用され何も問題がない人、アルバイトや派遣、契約社員として働いている人などいろいろおられるかと思うが、自分の働き方を改めて見直すため、グループワークをしたい。まず、非正規雇用の特徴は、大まかに言うと3つ。

- 1 雇用が不安定。たとえば雇用契約期間が短いなど。
- 2 給料が少ない。たとえば、ボーナスがない、あるいは少額、長年勤めても昇給がないなど。
- 3 雇用保険などの社会保険に加入できない場合がある。ただし、一定の条件を満たした場合は加入できる。

たとえば、厚生労働省によると、1週間の所定労働時間が20時間以上で、かつ31日以上雇用が見込まれる場合、雇用保険に加入することになっている。

登録派遣、パートタイマー、契約社員などの非正規雇用労働者は、企業にとって都合がよい存在。世の中の景気が悪くなり、会社の景気も悪くなると、真っ先に解雇されてしまう。つまり、人件費抑制のために利用される。一方で、非正規雇用は、労働者側にとって働きやすい一面もある。特に女性の場合、出産、子育て、親の介護などを主に担うことになり、なかなか一生フルタイムで働き続けることができるわけではない。ライフスタイルにあわせて働く時間や時期を調整することができるのは、非正規雇用のメリット。

しかし、所得が低くなり生活が不安定になるので、男性の未婚化、女性が出産しにくいなどの影響がある。また、非正規雇用の場合、国民年金加入となり、将来、貯金がなければとても生活できない額で、老後の不安につながる。そんな中で、ブラックバイトという問題も出てきて、最近よく耳にするようになった。実際、私の息子と娘がそれぞれ大学生、高校生だったとき、アルバイト先がいわゆる、今で言うブラックバイトだった。その経験を私も聞いているので少し話したい。

娘は学習塾講師のアルバイトをしていたが、授業に必要な教材を事前に準備する時間は給料に含まれないと、いつも不満をもらしていた。また、一方的に契約とは違うシフトを組まれ、日曜も出勤しなければならないこともあった。息子は近所のコンビニでバイトをしていたが、一番嫌がっていたことは休憩時間でもなかなか休めないこと。店の奥で休憩していてもレジが混んでくると、一人では対応しきれず、休憩中でも呼び出されるが、その分の休憩を延長できなかった。休日、深夜に働いても、時給が割り増しにならなかった。また、6時間以上働いても、休憩がないこともあった。これはブラックバイトの典型だったと思う。ブラックバイトを知らずに今でも続けている人がまだまだいるのではないかと思う。

次に、ブラックバイトの被害を受けないために、バイトを始めるときに気をつけたいことを簡単に説明する。

働く期間、時間、時給などの条件は、必ず書面でもらうことが大事。また、労働基準法で、労働時間が6時間を越えた場合、少なくとも45分の休憩時間が取れる、事業主は法律で決められた休憩時間をきちんと与えなければならない、と決まっている。8時間を超える場合は、少なくとも1時間の休憩をとることができる。また、一方的なシフト変更を求められても断ることができる。このような知識があれば、雇用主の言いなりにならずきちんと対応ができる。

今から、3つのグループに分かれ、働き方について話し合うグループワークを行う。受付で渡した名札にグループ名が書いてあるので、移動してください。

2015（平成27）年度 パソコン実技試験問題（あらすじ）

テーマ「医療（熱中症）」

／6月に入り、そろそろ熱中症の危険が高まる時期。熱中症について知り、その対策をし、熱中症にならないで、元気に夏を乗り切るための講座。熱中症とは、高温多湿な状態のときに、体が適応できなくなって起こるさまざまな症状の総称。熱中症を引き起こす要因は「環境」「からだ」「行動」の3つ。

- 1 「環境」とは、気温が高い、湿度が高い、風が弱い、日差しが強い、などの周囲の環境。それ以外にも、閉め切った室内、エアコンのない室内も「環境」の中の要因。
- 2 「からだ」とは、高齢者、乳児、幼児など年齢的なもの。また、二日酔い、寝不足などの体調が該当する。
- 3 「行動」とは、運動や作業。たとえば激しい運動、暑い中での長時間の屋外作業など。

「暑さ指数」は、略してWBGT。まだあまり知られていないが、環境省のホームページに詳しい説明が載っている。暑さ指数は、熱中症を予防することを目的に1954年にアメリカで提案された指標。暑さ指数の単位は「℃」で表されるが気温とは違う。

暑さ指数は、「気温」「湿度」「輻射熱」の3つの要素を取り入れた指標。輻射熱とは、地面や建物や人の体などから出る熱のことで、温度が高いものから出る熱。熱中症の危険度を判断する数値として、この暑さ指数を、環境省では平成18年から情報提供している。3つの要素の効果は、気温、湿度、輻射熱が1：7：2という割合で、熱中症には湿度が大きく関係している。たとえば気温が同じでも、湿度が高いほうが熱中症にかかりやすくなる。

暑さ指数にはいろいろな指針があるが、ここでは運動に関する指針について説明する。運動については、暑さ指数を25℃、28℃、31℃を区切りにし、3段階に分けて危険度が示される。暑さ指数が25℃以上では「警戒」。28℃以上では「厳重警戒」。31℃以上では「運動は原則中止」。

暑さ指数は、気温だけでなく、湿度、日差しの違いも含めることで、よりの確な熱中症予防の情報を提供することができる。環境省のホームページで、皆さんが住んでいる地域の暑さ指数を調べることもできる。ぜひ一度ご覧ください。

実は、一人暮らしをしている80歳の私の母親が熱中症寸前になってしまったことがある。毎年夏になると、母が熱中症にならないか心配だったので、熱中症の危険を知らせる「熱中症計」を実家に置いていた。ところが、危険を知らせるブザーの音が高音だったため、高齢の母には聞こえづらく、まったく意味がなかった。ブザーが鳴りっぱなしでも、母はまったく気づいていなかった。今日も対策グッズコーナーに熱中症計が置いてある。利用するときは、使う本人が聞こえるか、事前に確認してほしい。

では、この後の健康相談会について案内したい。今からロビーで健康相談会を実施するが、3ブースに分かれている。向かって右側が「健康チェックコーナー」で、血圧、体温の測定ができる。また、簡単なストレッチや体操の指導も行っている。

中央のブースが「熱中対策グッズコーナー」で、熱中症対策のためのグッズ、たとえば熱中症計や体を冷やすものなどを販売している。また、今日は熱中症予防や対策に効果があると言われるペットボトルの経口補水液を一人1本、無料で配布しているので、お持ち帰りください。

そして、向かって左側が「個別相談コーナー」。保健師が無料で対応するので、健康のことで気になることがあれば遠慮なくお尋ねください。私の説明は以上。

(1389/2401 文字)